

平成31年度 前期学校評価アンケート結果に関する一考察

1 学校生活の楽しさ

「学校生活の楽しさ」という項目において、生徒・保護者・職員共に8割以上の肯定的な回答となっています。しかし、3年生は、昨年度（2年時）と比較すると若干ですが数値が低くなっています。また、1年生は昨年度の1年生（現2年生）に比べて若干ですが数値が低下していることが気になります。この原因として、前期の学校・生徒の慌ただしさや、生徒の多様性などが考えられます。従来の生徒の姿と比較すると、生徒同士の関わりも若干希薄になっている気もします。あるいは、前期アンケート実施時期は昨年度と同時期に行っていますが、今年度は台風15号の甚大な被害が残る時期と重なってしまったため体育祭での充実感や成就感がやや薄れてしまったことも要因として考えられます。いずれにしろ、後期には充実を目指して取り組みたいところです。

2 生徒と先生の間関係・相談のしやすさ・いじめや暴力がない学校生活

「生徒と先生の間関係」という項目において、高い数値となっています。日頃の学校生活（授業・部活動・生徒会活動など）において、様々な教員が生徒と共に活動を行い、身近な存在であることがわかります。しかし、「相談のしやすさ」では、生徒の数値がやや低くなっています。教育相談担当を軸にして、教員だけでなくスクールカウンセラーや外部機関（市相談員など）との連携を図り、早期発見・早期対応を心がけると共に相談しやすい雰囲気づくりに努めていきます。

いじめに関しては、昨年度と比べても目立った数値は出ていません。今後も、教育相談同様にいじめの前兆を見逃さずに、チームとしての対応と絶対に許さない姿勢を持って指導・支援にあたっていきます。嶺南中として、「何かあったら、見つけたら、すぐ相談」、そしてその日に起きたことはその日に解決する姿勢を今後も大切にしていきます。

3 授業のわかりやすさ

前回同様、職員は、「わかる授業に心がけている」という数値が高くても、「授業はよくわかる」と言っている」という項目に生徒や保護者はそうは思っていないということがわかります。生徒も保護者は、よりわかりやすい授業を求めています。生徒が「できた・わかった」と感じられる授業づくりに努力し続けたいと考えます。また、新学習指導要領実施に向け、言語活動の充実を図るために指導法の工夫など、職員研修を積み上げていきたいと考えます。

4 家庭学習への取組

昨年同様、生徒、保護者、職員すべてが不十分と認識しています。学年内、教科内、その他全職員で取り組んでいかないと、解決しない大きな課題となっていますので、今後も実態を確認しながら啓発を続け、全校、学年、教科で必要なものは、積極的に取り入れたいと考えます。現在の1Pノートを中心とした指導も改善すべきかもしれません。3年生

においては、11月に受検に向けた「学び方講座」を実施しています。このような実践を他学年にも家庭学習の工夫改善となる手立てとして考えていきたいと思ひます。

5 学力の向上

教科によって差異もありますが、なかなか期待するほどの成果はでておりません。「向上どころか低下している」と感じている生徒・保護者が全学年において半数程度います。学力向上には、教師による粘り強く地道な仕掛けが必要であり、生徒自身の継続的な取組が欠かせません。教師による授業改善（達成感・成就感をより得られるような指導の工夫など）や家庭学習の取組ともリンクさせて対策を練っていく必要があります。

また、子ども自身に、テストの結果だけでなく、学力の多様性を示すことも必要であり、日常の授業の結果が自分に結びつくように指導したいものです。

6 各コメントについて

全体的に肯定的なコメントが多く、とても嬉しく思ひます。

要望や意見として、次の2つがありましたのでお知らせします。

①「情報発信」における「ブログ更新」を増やしてほしい。

・前年度に比べ、ブログを縮小するという方向性は、4月のPTAで校長から説明したとおりです。後期も、学校としては、この方向性で行きたいと考えています。しかし、学校便りや学年便りを含め、様々な方法での情報発信を心がけていますので、ご理解いただきたいと思ひます。

②SNSやLINE等によるトラブルに対する不安やいじめに対する不安をもたれる方がいます。

・スマホを持たせたり、LINEに入ったりしないと人間関係が得てないのではないかというご意見もありました。しかし、価値判断が育っていない子どもたちに情報機器を丸投げするのは、大変危険です。学校では、学校生活を通して他者理解や自己理解を深める場を積み上げたり、道徳教育の充実を図ったりと「生きる力」の醸成に努めてきたと考えます。引き続き「情報モラル教室」を実施し、正しい情報を学び、トラブル防止に努めるしか方法はありません。これについては、ご家庭でも、よくお子さんに指導を続けていただきたいと考えます。